

■参考：文部科学省 中央教育審議会（答申）（平成30年12月21日）

平成30年12月の中央教育審議会答申では、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「社会教育」を基盤とした、人づくり、つながりづくり、地域づくりを提唱している。

⇒社会教育は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を持つものであり、その要となるのが、学びの場を通じた住民相互のつながりである。

出典：文部科学省 HPより

### 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について (答申) 概要

#### 第1部 今後の地域における社会教育の在り方

＜地域における社会教育の目指すもの＞

**1. 地域における社会教育の意義と果たすべき役割～社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～**

多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応の要請

- ・人口減少、高齢化、グローバル化、貧困、つながりの希薄化、社会的孤立、地方財政の悪化、SDGsに向けた取組等  
⇒ 持続可能な社会づくりを進めるために、住民自ら担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要
- ・人生100年時代の到来、Society5.0実現の提唱等  
⇒ 誰もが生涯にわたる必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現へ向けた取組が必要

**社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割**

人づくり

自主的・自発的な学びによる知的欲求の充足、自己実現・成長

つながりづくり

住民の相互学習を通じ、つながり意識や住民同士の絆の強化

**学びと活動の好循環**

地域づくり

地域に対する愛着や帰属意識、地域の将来像を考え取り組む意欲の喚起  
住民の主体的参画による地域課題解決

**2. 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～**

<p style="color: #0070c0; font-weight: bold; text-align: center;">住民の主体的な参加のためのきっかけづくり</p> <p>社会的に孤立しがちな人々も含め、より多くの住民の主体的な参加を得られるような方策を工夫し強化</p>	<p style="color: #0070c0; font-weight: bold; text-align: center;">ネットワーク型行政の実質化</p> <p>社会教育行政担当部局で完結させず、首長、NPO、大学、企業等と幅広く連携・協働</p>	<p style="color: #0070c0; font-weight: bold; text-align: center;">地域の学びと活動を活性化 する人材の活躍</p> <p>学びや活動と参加者をつなぎ、地域の学びと活動を活性化させる多様な人材の活躍を後押し</p>
--	--	---

**開かれ、つながる社会教育へ**

＜「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策＞

**1. 学びへの参加のきっかけづくりの推進**

- ・楽しさをベースとした学びや地域防災、健康長寿など、関心の高い学び等、学びや活動のきっかけづくりを工夫
- ・子供・若者の参画を促し、地域との関わりの動機付けとなり得る成功体験づくり
- ・社会で孤立しがちな人に対して、福祉部局等との連携により、アウトリーチの取組を強化
- ・各地における具体的な取組の収集・共有、地域における活動の事例分析と周知

**2. 多様な主体との連携・協働の推進**

- ・首長部局との連携を効果的に図るため、総合教育会議の活用や、部局間の人事交流を推進
- ・NPO、企業、大学等と行政関係者との積極的な意見交換や協議
- ・地域学校協働活動を核にした社会教育と学校教育の一層の連携・協働

**3. 多様な人材の幅広い活躍の促進**

- ・地域の課題解決等に熱意を持って取り組む多様な人材を社会教育の活動に巻き込み、連携
- ・教育委員会における社会教育主事の確実な配置、多様な主体による「社会教育士」の取得推奨

**4. 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等**

- ・各地方公共団体における十分な社会教育費の確保を含めた基盤整備
- ・クラウドファンディング等の多様な資金調達手法の活用

1